令和4年度

まちづくり推進部 大森地域局の方針書

局　名	まちづくり推進部 大森地域局
局長名	内桶　圭時

1. 局の使命（ありたい姿）

多様な地域資源を活用し、地域住民との協働により「人・心・ふれあう郷土（まち）おおもり」を目指して、「人にやさしい特色ある地域づくり」を推進します。

2. 局の抱える課題（現状）

○地域資源である大森リゾート村の有効活用と地域の活力と賑わいの創出。

○住民との協同により、安全・安心な地域づくり。

○個々の職員のスキルアップ。

3. 今年度の『スローガン』

『縁の下の力持ち』として元気で信頼される地域局になろう！

4. 今年度の方針

(1) 市民から信頼され、元気で活力ある地域づくり。

(2) 安全・安心な地域づくり（含む、防災に対する意識の醸成を図る）

(3) 市民の規範となるべく振る舞いを意識して行動し、市民サービスの提供に向け職員の接遇やスキルの向上。

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
	取組内容	・地域資源である「大森リゾート村」全体を俯瞰して描き、魅力アップのための取り組みを行い、賑わいの創出を目指す。
(2)	実現したい成果	市民協働による地域見守りネットワークの構築
	取組内容	・「おおもり支えあい協議体」「大森地域子育て支援ネットワーク委員会」「地区交流センター」等との連携を強化し、安全で安心して暮らすことのできる地域づくりを目指す。
(3)	実現したい成果	明るく元気なあいさつの励行と住民からの信頼を意識して行動できる職員の推進
	取組内容	・住民に親しまれ、元気で信頼される地域局を目指すため、元気な対応が市民サービスの基本であることを認識し共有する。 ・市役所を代表しているという自覚と、住民に寄添う気持ちを持って市民対応する。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1)地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
・「大森リゾート村」の魅力アップにつなげるための大型遊具（コンビネーション遊具）を建設中。大森テニスコートの7月までの4か月間の延べ利用数は8，342人となり昨年と比べて利用者が増加している。大森テニスコートの知名度も出てきており、全県規模の大会も開催されてきている。それに伴い、さくら荘の利用者も増加傾向にある。
・さくら荘コテージにおけるワーケーションについては、JALによるモニターツアーが実現した。

(2)市民協働による地域見守りネットワークの構築
・「おおもり支えあい協議体」を4月に開催し、今年度の事業を確認したほか、小ネットワーク会議等により地域の現状と課題を把握している。また、「大森地域子育て支援ネットワーク委員会」を5月開催。学校の夏季休業前における開催は、コロナウィルスの感染拡大により中止としたが、事案によっては随時、関係者間で情報共有している。

(3)明るく元気なあいさつの励行と住民からの信頼を意識して行動できる職員の推進
・市民の要望に対しワンストップサービスでの対応が出来ている。
・職員それぞれが、お客様に対し「あいさつ・声掛け」を励行するとともに、丁寧な案内、お客様目線での説明が行われている。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
・テニスコートが閉鎖される、12月以降の利用者の利用者の獲得。
・ワーケーションモニターツアーから得られた課題に対する検討。

(2)市民協働による地域見守りネットワークの構築
・一人暮らし高齢者世帯等の訪問により相談を受けた事案について、関係者と連携で必要なサービスに繋げていく。また、地区交流センターとの連携により地域の実情を把握するほか、支えあい活動や困りごと相談などの情報交換、意見交換を引続き行っていく。子育て支援についても、引続き関係者同士で連携を密にしながら粘り強く対応していく。

(3)明るく元気なあいさつの励行と住民からの信頼を意識して行動できる職員の推進
・上期に引続き、来庁された方の気持ちを第一に考え、積極的な声かけと、丁寧かつ迅速な対応をしていく。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）

(1)地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
・テニスコート利用者は昨年より4,500人増の16,325人であった。コロナ感染者が減少傾向になったことにより活動が活発化され、各種大会や練習試合、講習会の開催の増加によるものと分析している。次年度以降も平日の日中の利用者増を目指しPR等を行っていく。
・さくら荘は、前年度と比較し、宿泊利用者が大幅に増加（さくら荘：約50％増、コテージ：約30％増）した。この背景には、国や秋田県の旅行支援事業が年度当初から行われたことや、個室プランの充実を図ったことによる少人数の会食の増加、屋外のコテージの宿泊利用者の増加が寄与したものと分析している。また、宿泊以外での利用も、各種団体の会食が徐々に回復傾向にあることや、屋外のバーベキュー利用者が増加などにより前年度比較で増加となった。
・次年度に向けた課題としては、コロナ禍からの本格的な回復による施設利用者の増加に対応するための施設職員の働き方（シフト）改革や物価高騰に対応した料理単価の改定などが急務であるが、各部門が一体となり施設利用者の満足度向上に努向けた取り組みを進める。
・子どもの広場に大型遊具を設置するとともに公園全体に砂を敷き均すなどの整備を行った。
・芝桜の整備としては、3,800株の補植を行った。

(2)市民協働による地域見守りネットワークの構築
・一人暮らし高齢者135世帯等の訪問により相談を受けた事案について、社会福祉協議会などの関係者と連携し、必要なサービスに繋げることができた。高齢者の安心にもつながる事業であることから、実務での反省点を踏まえ次年度も引続き行っていく。また、子育て支援ネットワークの会議は、コロナ感染の関係で1回少ない開催となったが、学校や駐在所等の関係者間で情報を共有し、支援策を深められたことから、引続き必要な支援策について関係機関と粘り強く対応していく。

(3)明るく元気なあいさつの励行と住民からの信頼を意識して行動できる職員の推進
・来庁された方への積極的なあいさつと、迅速かつ丁寧な対応を行った。また、マイナンバーカードの交付や申請の関係で窓口が混雑しないよう、係の業務を越えた対応で来庁者が安心できる窓口体制を図った。今後とも、明るく元気な地域局を全職員で築くため、意識して積極的な挨拶、対応が出来るようコミュニケーションを大切にしていく。